

平成24年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

伊那市教育委員会

## 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき実施するものです。

### (参 考)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行ない、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行なうに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、平成23年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね下記の基準によります。

評価	内 容
a	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
b	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
c	一定の成果は上がっているが課題もあり、改善の必要がある
d	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

平成23年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評価	備考
<b>第1節 学校教育の充実</b>				
<b>1-1：個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進</b>				
1	学校教育の充実	総合的な学習	a	学校教育課
2		学力向上	b	学校教育課
3		幼保小中の連携	b	学校教育課
4		読書活動の推進	b	学校教育課
5		特別支援教育	b	学校教育課
6		外国籍児童生徒の支援	b	学校教育課
7		給食運営	b	学校教育課
8	教育環境の整備	学校施設の建設	a	学校教育課
9	促進	学校備品整備・情報教育	b	学校教育課
<b>1-2：高校教育との連携</b>				
10	高等学校への支援	高等学校振興	b	学校教育課
11		私立高等学校振興	b	学校教育課
<b>1-3：心の教育及び支援体制の充実</b>				
12	心の教育と支援	中間教室	b	学校教育課
13		子育て教育支援相談、家庭児童相談	a	学校教育課
14		不登校児童生徒支援ネットワーク	b	学校教育課
15		心の教室相談員	b	学校教育課
16		スクールカウンセラー	b	学校教育課
<b>第2節 生涯学習・芸術文化の振興</b>				
<b>2-1：生涯学習の振興</b>				
17	生涯学習・社会教育の推進	市民大学	b	生涯学習課
18		桜大学	a	高遠長谷教育振興課
19		長谷生涯学習講演会	a	高遠長谷教育振興課
20	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	b	生涯学習課
21		公民館建設（施設管理）	b	生涯学習課
22		公民館共同事業	a	生涯学習課
23		公民館事業	b	生涯学習課
24	図書館の充実	蔵書管理	b	生涯学習課
25		図書館イベント	b	生涯学習課
26		図書館分館	b	生涯学習課
27	生涯学習センターの充実	生涯学習センター	b	生涯学習課
28	人権同和教育の推進	社会人権同和教育	b	生涯学習課
29		学校人権同和教育	b	学校教育課
<b>2-2：青少年健全育成と家庭教育の充実</b>				
30	青少年の健全育成	学童クラブ	b	生涯学習課
31		子ども週末活動の支援	b	生涯学習課
32		少年補導委員会・少年補導センター	b	生涯学習課

33		子ども会・育成会	b	生涯学習課
34		成人式	b	生涯学習課
2-3:文化の振興				
35-1	文化事業などの 充実	伊澤修二記念音楽祭	a	生涯学習課
35-2		い〜な音楽祭	a	生涯学習課
36		市民音楽祭	b	生涯学習課
37		信州伊那井月俳句大会	b	生涯学習課
38		進徳館の日	b	高遠長谷教育振興課
39		伊那能	a	生涯学習課
40	博物館などの整 備・活用	創造館（旧上伊那図書館）	a	生涯学習課
41		高遠町歴史博物館	b	高遠長谷教育振興課
42		信州高遠美術館	b	生涯学習課
第3節 文化財の保存・継承・活用				
3-1:文化財の保存・継承・活用				
43	文化財の保存・継 承・活用	史跡高遠城跡	b	高遠長谷教育振興課
44		民俗資料館	b	高遠長谷教育振興課
45		旧井澤家住宅	b	生涯学習課
46		考古資料館	c	生涯学習課
47		民俗文化の伝承	b	生涯学習課
第4節 スポーツ・レクリエーションの振興				
4-1:豊かなスポーツライフの実現				
48	スポーツライフ の実現	市民体育祭	b	スポーツ振興課
49		総合型地域スポーツクラブ	a	スポーツ振興課
50		春の高校伊那駅伝	a	スポーツ振興課
51		ソフトボールの振興	a	スポーツ振興課
52		体育施設の整備	a	スポーツ振興課

## 第1節 学校教育の充実

### 1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進

豊かな人間性や社会性を身に付け、自ら学び、自ら考える「生きる力」を育むため、地域の自然、歴史、産業等に根ざした特色ある教育を進めます。また、基礎・基本の学力の確実な定着を図るとともに、一人ひとりの個性や人権を尊重した教育の充実をめざします。

#### (1) 学校教育の充実

事務事業	No.1	総合的な学習	H23 年度決算額	5,043 千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、伊那市らしい総合的な学習を推進します。			
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学习」、「体力づくり」など創造的な学習の支援			
達成状況	全小中学校（小学校 15 校、中学校 6 校）において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。			
	区分	学校名	平成 23 年度主な取り組み	
	小学校	伊那	動物飼育（鳥類・羊・豚）、稲・野菜栽培、演劇、調理など	
		伊那東	稲・野菜栽培、被災地や貧困国への支援など	
		伊那北	稲・野菜栽培、老人福祉施設・保育園との交流、生き物飼育など	
		伊那西	稲・野菜・花栽培、林間学習、エコキャップ運動など	
		富県	小動物・魚など飼育、稲・野菜・花栽培、里山体験など	
		新山	新山探検（トンボ観察・遺跡・新山の森）、稲・野菜栽培など	
		美篤	動物・蚕飼育、野菜栽培、桜並木の活動、歴史探検など	
		手良	地域探検、稲・野菜・花栽培、和太鼓・箏曲等邦楽学習など	
		東春近	稲・野菜栽培、カヌー作り、権現山登山など	
		西箕輪	羽広かぶ栽培、地域探検、保育園・養護施設との交流など	
		西春近北	地域探検、稲・野菜栽培、和太鼓演奏、自然エネルギー活用など	
		西春近南	花・野菜栽培、ウサギ飼育など	
		高遠	稲・野菜栽培、カヌー学習、被災地の復興支援、森の学習など	
		高遠北	地域探検、老人ホーム・保育園・外国との交流、稲栽培など	
		長谷	稲・野菜栽培、地域探検、土笛作り、ふるさと祭り参加など	
	中学校	伊那	宿泊体験学習、福祉体験学習、職場体験、地域学習など	
		東部	地域の方や自然に学ぶ活動、平和学習、大震災から学ぶ活動など	
		西箕輪	地域の歴史・文化・伝統芸能等体験、職場体験、福祉交流など	
春富		サツマイモ栽培、学年菜園、職場体験、環境整備作業など		
高遠		キャリアキャンプ、森林学習、職場体験、高遠太鼓など		
長谷	伝統芸能、郷土料理、化石の学習、炭焼き、地域の歴史探訪など			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 子どもの学びにおける総合的な学習の位置づけを常に明確にする必要があります。また、「体験学習」や「交流学习」を通して総合的に「生きる力」や「人間関係力」を養う必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 子どもが自ら学び、自ら考え、自ら伸びようとする力を大切に考え、地域の自然や文化・伝統など体験を通して行なわれる総合的な学習を推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.2	学力向上	H23 年度決算額	3,821 千円
事業の目的	<p>自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童生徒一人ひとりの実態に応じた学習指導を行います。</p> <p>また、中学校の放課後行われる自発的な学習活動を支援します。</p>			
事業内容	<p>○標準学力検査（市独自）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学4年生（683人）算数・小学5年生（655人）国語、算数、</li> <li>・中学2年生（691人）国語、数学、英語</li> </ul> <p>○学力検査結果の分析と授業改善</p> <p>○中学校の放課後学力向上支援事業の実施</p>			
達成状況	<p>○伊那市が標準学力検査を始めて8年が経過し、小中学校共に基礎・基本の学力の定着がみられます。各校においては、学力検査の分析を基に個別指導、授業改善に取り組むとともに、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」など生活習慣の定着を進めました。</p> <p>○教育長、指導主事、学校長で構成する「学力検査検討委員会」、授業改善の取り組みを発表する「学力向上のための実践事例発表会」（56人参加）を実施しました。</p> <p>○中学校の放課後学力向上支援事業を実施しました。</p> <p>受講生徒数 540人（H21:509、H22:543人）</p> <p>支援員数 52人（H21:43、H22:50人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>平成23年度に市が実施した標準学力検査の結果、小学校は、各科目の偏差値平均が、すべて全国平均を上回りました。しかし、中学校は、国語は全国平均を上回りましたが、数学・英語は、全国平均を下回りました。</p> <p><b>【方向性】</b>学力検査などの分析を、児童生徒一人ひとりの学習指導に活かすとともに、体験的な学習やグループ学習を取り入れたり、授業をもっと良くする3観点を特に意識した授業改善に取り組み、児童生徒の自発的な学習を促進します。また、家庭や地域などと連携し、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」、「ノーテレビ・ノーゲーム」などの生活習慣の定着を進めます。</p> <p>引き続き、「学校ボランティア」の募集を行い、学力向上支援員の確保に努めます。</p>			
自己評価	b			



三峰川桜並木での施肥活動（美篤小学校）



モチクイ平での森林作業（西春近北小学校）

事務事業	No.3	幼保小中の連携	H23 年度決算額	0 千円
事業の目的	成長段階のスムーズな移行と子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図るため、幼稚園・保育園、小学校、そして中学校が、子どもの育ちと学びの連携を進めます。			
事業内容	○幼保小連絡会、小中連絡会の開催、○学校行事等を通じた児童生徒の交流 ○保育士、小・中学校教員の相互体験、○幼保小連携推進委員会開催			
達成状況	○全ての小中学校は、連絡会などを通し、子どもに関する情報の共有を図り、幼・保・小・中が同じ認識で子どもに接することができるようになってきています。 ○支援を要する子どもを対象に「発育発達支援票」を作成し、幼・保・小・中の情報共有を図っています。 ○幼稚園・保育園児が次の教育環境に慣れる取り掛かりとして、一日入学、運動会、音楽会、文化祭など学校行事への参加、クラス交流等が行われました。 ○中学校教職員がで小学校へ出向いて授業をする出前事業等を行い、中学校入学へ期待感を育みました。 ○職員交流として保育士の小学校派遣、小学校職員の保育園 1 日体験を実施しました。 ○「幼保小連携推進委員会」において、より良い連携を進めるための課題の検討を行いました。			
事業の課題及び方向性	【課題】進学時の学校不適應への対応。 【方向性】児童生徒、教職員の交流などを通じた心的距離の縮小により、学校不適應の減少をはかります。 幼保小連携推進委員会において、幼保小連携接続カリキュラムを作成します。全教職員が課題を共有するとにより日々の指導に生かしていきます。 中学校区での小中連携を進めていきます。			
自己評価	b			

事務事業	No.4	読書活動の推進	H23 年度決算額	48,425 千円
事業の目的	心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。			
事業内容	○図書館司書（非常勤職員）の配置 ○読み聞かせボランティアの活用及び充実			
達成状況	全小中学校に市費で図書館司書（兼務 4 人）を配置、読み聞かせボランティアが活動する学校数も多く、全小中学校において「朝読書」など全校一斉読書を行っています。 【参考】全校一斉読書実施校 全 21 校 (H21:21 校、H22:21 校) 学校図書館司書の配置人数 17 人 (H21:17 人、H22: 17 人) 読み聞かせボランティア活動学校数 19 校 (H21:17、H22: 17 校) 小中学校児童生徒 1 人当たり蔵書数 36.7 冊 (H21:35.9 冊、H22:35.1 冊)			
事業の課題及び方向性	【課題】読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。 【方向性】引き続き学校図書館蔵書の充実に努めます。子どもの読書活動や調べもの活動を支える図書館司書を全校に配置します。読み聞かせボランティアの充実や「読書ノート」の活用などにより読書活動を推進します。			
自己評価	b			

事務事業	No.5	特別支援教育	H23 年度決算額	36,842 千円
事業の目的	知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育支援員の配置 支援講師、支援介助員の配置（小学校 10 校 23 人、中学校 2 校 2 人）</li> <li>○ 伊那中央病院院内学級の設置、運営</li> <li>○ 「ことばの教室（伊那小学校内）」の設置、運営</li> </ul>			
達成状況	特別支援学級や通常学級に在籍する特別支援教育支援員を市費で配置しています。 【参考】特別支援教育支援員数 25 人（H21:20 人、H22: 23 人）			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】特別支援学級に在籍している児童生徒が増加する傾向にあります。また、通常学級においても学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。</p> <p>【方向性】学校、保護者を中心に関係者と連携を図り、子どもの将来を見通した指導・助言を行います。また、必要に応じて支援員等の配置や必要数を見直していきます。養護学校等特別支援学校に就学する児童生徒が、地域とのつながりを維持するために、市内小中学校に副学籍を持ち、副学籍を置く学校の行事や学習活動などへ参加する制度についても研究を進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.6	外国籍児童生徒の支援	H23 年度決算額	6,619 千円
事業の目的	通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語教室の設置、運営（伊那東小、伊那北小、東部中）</li> <li>○外国語児童生徒支援相談員の設置（伊那東小、伊那北小、東部中） <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等</li> </ul> </li> <li>○発達障害等特別支援を必要とする外国籍児童の支援介助、家庭と学校との連絡、通訳等に当たる支援員の配置。（伊那東小）</li> </ul>			
達成状況	障害を有し特別な支援を必要とする外国籍児童に対応するため、支援員 1 名を増員しました。			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】障害を有し特別な支援を必要とする外国籍児童が増加しています。また、多様な言語への対応が求められています。</p> <p>【方向性】日本語教室の設置、運営。外国語児童生徒支援相談員等の適切配置を行っていきます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.7	給食運営	H23 年度決算額	284,322 千円
事業の目的	児童生徒が食事に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食育を推進します。			
事業内容	○給食運営 ○栄養士、給食技師の配置			
達成状況	給食技師の臨時職員化、食材の共同購入により、経費の削減を図るとともに、栄養士を各学校及び調理場に配置することにより、食育の推進を図り、地産地消の安全安心な美味しい給食を提供しました。(平成 23 年度県内産食材利用率 約 51%) 【参考】給食提供数 1,387,344 食 (H21:1,416,433、H22: 1,397,576) 1 食あたりの経費 (直接経費/年間給食数) 204 円 (H21:225、H22: 217 円) 給食技師数 74 人 (H21:78、H22: 75 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】子どもに安全安心、そして美味しい給食を提供するとともに、子どもの食に対する理解を深める必要があります。 【方向性】関係者の意見を聞きながら計画的な給食施設整備を行い、食文化を高める学校給食への取り組みや人的配置など効率的な運営を図るとともに、食事に関する正しい理解と習慣を身に付けるために食育を推進します。			
自己評価	b			

### 学校給食の様子



伊那北小学校



伊那中学校

## (2)教育環境の整備促進

事務事業	No.8	学校施設の建設	H23年度決算額	880,383千円
事業の目的	<p>○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校の耐震化を実施しトイレ改修を行います。</p> <p>○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の補修等整備を行います。</p>			
事業内容	<p>○耐震診断・補強工事等 新耐震基準に適合していない建物について耐震診断を行い、耐震補強等が必要であると診断された建物について耐震工事を実施します。</p> <p>○補修工事等</p>			
達成状況	<p>○耐震補強・トイレ改修工事等</p> <p>(1) 耐震診断の実施 9校実施 2次診断終了100%達成</p> <p>(2) 補強・改築工事の実施 美篤小学校特別教室棟・体育館、長谷小学校教室棟・体育館、東部中学校特別教室棟、春富中学校玄関棟 耐震化率78.8% (H22:67.3%)</p> <p>(3) トイレ改修工事等の実施 美篤小学校工事、高遠小学校設計</p> <p>○ 補修工事等</p> <p>(1) 地デジ施設・エアコン設置工事【H22からの繰越】</p> <p>(2) 伊那小学校集中暖房機・東春近小学校ペレットストーブ設置工事</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】安全安心な教育環境を整備するため、学校耐震補強工事を進めます。</p> <p>【方向性】平成27年度末までに、有利な財源を利用して耐震化率100%を目指します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.9	学校備品整備・情報教育	H23年度決算額	29,431千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	<p>○一般教材・理科教材備品の整備</p> <p>○教育用パソコン、ネットワーク環境の整備</p>			
達成状況	<p>必要な教材備品及び情報機器を整備しました。</p> <p>情報委員会を開催し、情報セキュリティに対する意識向上を図りました。</p> <p>○平成23年度は、前年度に引き続き新学習指導要領に対応するための教材備品の整備を進めました。</p> <p>【参考】教育用パソコンの台数 665台 (H21:665、H22:665台) PC教室の1人当たりPC台数1台 (H21:1、H22:1台)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】新学習指導要領に対応する教材備品の整備と、情報機器等の適切な管理を行なう必要があります。また、携帯電話・パソコン等との上手な付き合い方を身につける必要があります。</p> <p>【方向性】学校からの要望に基づき教材備品や情報機器を整備するとともに、情報セキュリティ意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育を進めます。</p>			
自己評価	b			

## 1-2：高校教育との連携

高等学校教育の充実のための支援を実施するとともに、小中学校との連携を図り、一体感のある教育環境を創出します。

### (1)高等学校への支援

事務事業	No.10	高等学校振興	H23年度決算額	2,533千円
事業の目的	過疎地域高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。			
事業内容	○高遠高等学校振興会活動の支援			
達成状況	<p>保護者負担を軽減するため、平成23年度より振興会が通学費補助事業開始、その経費を市費で負担しました。</p> <p>○高遠高等学校振興会への支援（従来分）1,600千円（H21:1,458、H22:1,400千円）</p> <p>○〃（バス通学費補助分）83人、933千円</p> <p>○高遠高等学校においては、伊澤修二先生記念音楽祭などで小中学校と連携を進めています。</p> <p><b>【参考】</b>          高遠高等学校伊那市に住所を有する生徒数263人（H21:303、H22:301人）          補助単価（補助額／高遠高校生徒数）9,632円（H21:4,812、H22:4,651円）</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 高遠高等学校は、コース制を導入し、特色ある学校運営を行っています。特色ある学校として存続を図るためにも引き続き支援が必要です。</p> <p><b>【方向性】</b> 高遠高等学校については、魅力ある学校運営と利便性向上に必要となる振興活動経費の一部について補助を行いません。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.11	私立高等学校振興	H23年度決算額	1,014千円
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。			
事業内容	○伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援			
達成状況	<p>同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たすとともに、地域に根ざした高等学校として定着しています。</p> <p><b>【参考】</b> 定額補助 1校当たり600,000円（H21:600,000、H22:600,000円）          生徒割補助1人当たり2,600円（H21:2,600、H22:2,600円）          伊那市に住所を有する生徒数159人（H21:167、H22:186人）          全校生徒数466人（H21:482、H22:487人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 私立高等学校や保護者を取り巻く経済状況は厳しさを増しています。</p> <p><b>【方向性】</b> 地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く状況を考慮し、学校運営費の補助を継続して行いません。</p>			
自己評価	b			

### 1-3：心の教育及び支援体制の充実

小中学校における心の問題や不登校、いじめ問題の解消に努めるとともに、良好な環境の中で子育てができるよう家族全体を支援します。

#### (1)心の教育と支援

事務事業	No.1 2	中間教室	H23 年度決算額	4,273 千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、学校復帰へ向け支援、相談及び学習指導を行います。			
事業内容	○中間教室の設置 ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 <b>【小学部】</b> 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～15:30、会場：やまびこ学級 1 階 <b>【中学部】</b> 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～16:00、会場：やまびこ学級 2 階			
達成状況	平成 23 年度の不登校児童生徒数は 76 人です。中間教室通室児童生徒のうち中学生の 75%が進学又は学校へ復帰しました。 <b>【参考】</b> 通室者数 小学部 5 人 (H21: 7、H22: 7 人) 中学部 20 人 (H21: 9、H22: 13 人) 通室割合 (通室児童生徒数/不登校児童生徒) 小学部 35.7% (H21:35.0、H22: 53.8%) 中学部 32.3% (H21:14.3、H22: 21.3%) 遠距離から通室する児童生徒の通学費を補助しました。 国の補助制度を活用したエアコン設置等通室しやすい環境を整備しました。			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。 <b>【方向性】</b> 学校、子育て支援教育相談室、医療機関等との連携をとりながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。			
自己評価	b			

#### ☆ 春富中学校人権宣言

2007年1月19日 春富中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いかなる時もお互いに平等であり、楽しく、安心して学校生活を送っていく権利をもつ。
- 第2条 安心して生活できる学校とは、命を大切にし、学校全体に落ち着きがあり、友達を信頼でき、行きたいと思える学校である。そのような学校にするため、私たちは努力しなければならない。
- 第3条 私たちは、個人の性格や容姿、人柄や考え方、身体的な特徴、能力や性別、年齢差などといった個性の違いを理由とした、あらゆる差別や、中傷、いじめなどの行為をしてはならないし、こういった行為を許してはならない。
- 第4条 私たちは学校生活において自分の意見や考えを表現する自由がある。
- 第5条 私たちは、差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしたとき、クラスや学年・生徒会、そして親や先生、友達に助けを求めることができる。
- 第6条 差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしている人を守るため私たちは立ち上がる義務がある。
- 第7条 私たちは、春富中からいじめや差別をなくしていくために、相手の気持ちを考え、思いやりを持って、行動できるよう努力する。

#### ☆ 西箕輪中学校人権宣言

2010年1月21日 西箕輪中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いじめや差別についてよく理解するよう努力し、周りにあるいじめに気付けるようになります。
- 第2条 私たちは、一人ひとりの個性を認め、いじめや差別を絶対に許しません。
- 第3条 私たちは、毎日明るくあいさつをし、みんなが声がけできる環境をつくります。
- 第4条 私たちは、常に相手の気持ちを考えて行動し、温かい言葉で話します。
- 第5条 私たちは、どんな時でも、助け合い、支え合い、励まし合う友達をつくります。

事務事業	No.1 3	子育て教育支援相談、家庭児童相談	H23 年度決算額	16,424 千円
事業の目的	親の教育力と家族機能を高め、子どもの生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期まで一貫した相談支援を行います。			
事業内容	○関係機関との連携及び支援（保健・医療・福祉・教育・警察・司法等） ○要保護児童生徒（虐待を受けている児童、非行、虞犯（ぐはん）等）の保護 ○個別支援検討会議による関係機関の役割分担と連携			
達成状況	○子育て教育支援相談室が中心となって、関係機関と連携し、多数の相談及び案件に対応しました。 ○発達障害を持つ子どもが人とうまくかかわっていくための方法を身につけるためのソーシャルスキルトレーニング（SST）や親の養育力の向上を図るためのペアレントトレーニングを実施しました。 ○平成 23 年度は、児童虐待へ対応を強化するため、関係機関の研修を実施しました。また、個別ケース支援会議を開催し通告後の支援の強化を図りました。 【参考】相談・支援数 2,339 件（H21:4,026、H22: 3,775 件） 個別支援検討会議 165 回（H21:134、H22:134 回）			
事業の課題及び方向性	【課題】相談件数が増加する中、相談内容は多様化し、緊急性を増しています。 【方向性】・乳幼児から思春期まで相談窓口は一本化されましたが、増え続ける相談に迅速かつ適切に対応するため、子どもに係わる関係機関と連携を図ります。 ・児童福祉法や障害者自立支援法の改正に伴い子育て教育支援相談室の組織の在り方について検討します			
自己評価	a			

事務事業	No.1 4	不登校児童生徒支援ネットワーク	H23 年度決算額	22,871 千円
事業の目的	地域支援センター（子育て教育支援相談室、中間教室、上伊那子どもサポートセンター）を中心に、学校、福祉、医療等関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。			
事業内容	関係者、関係機関の連携による不登校児童生徒への支援 上伊那子どもサポートセンターの運営費支援			
達成状況	平成 21 年度以降不登校児童生徒の増加傾向に歯止めがかかりましたが、中学校は県平均よりやや高い状態にあります。 ○平成 21 年度より、国の補助事業を活用し、不登校・不適応の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、5 中学校へ教員補助員を配置しています。平成 23 年度は不登校支援コーディネーター 1 名を増員し計 9 人を配置しました。 【参考】不登校児童生徒数 小学校 14 人 0.34% (H21:20 人 0.47%、H22:13 人 0.31%) 中学校 62 人 2.91% (H21:63 人 2.95%、H22:61 人 2.90%)			
事業の課題及び方向性	【課題】未然防止、早期発見、早期対応により、不登校を長期化させない取組みを一層進めることが必要です。義務教育終了後の引きこもり青年等の自立支援に関係機関で取り組む必要があります。 【方向性】学校、子育て支援教育相談室、中間教室、医療機関等と連携し、不登校児童生徒への早期支援、家庭支援を進めます。義務教育終了後の、引きこもり青年の自立支援について取組みを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.15	心の教室相談員の配置	H23年度決算額	9,357千円
事業の目的	小中学校に児童生徒が抱える不安や、悩みの相談に当たる相談員を配置し、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援する。必要に応じて学校、スクールカウンセラー等と連携し、不登校傾向の児童生徒の家庭訪問等の支援を行う。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の話し相手・悩み相談</li> <li>・ 不登校傾向の児童の早期発見・早期対応（家庭訪問含む）</li> <li>・ 不登校児童及び不登校児童をかかえる家庭への対応等</li> </ul> ○市費相談員の配置 相談員12人を16校へ配置（2校兼務4人） <b>【県費 子どもと親の相談員 2名（伊那小、伊那東小）】</b>			
達成状況	相談件数は増加しており、不登校やいじめを未然に防ぐ相談が定着してきています。また、相談員は市費で配置し、個別の相談に対応しています。 <b>【参考】</b> 小学校における延べ相談件数8,428件（H21:8,526、H22:8,227件） 中学校における延べ相談件数5,176件（H21:8,301、H22:3,952件）			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 子どもの悩みが、不登校やいじめに発展する前に、心の教育相談による早期対応が求められています。 <b>【方向性】</b> 初期の相談窓口として定着を図るとともに、専門性・緊急性を要する相談についてはスクールカウンセラーや子育て教育支援相談室へ引き継ぎます。			
自己評価	b			

事務事業	No.16	スクールカウンセラーの配置	H23年度決算額	1,197千円
事業の目的	児童生徒、保護者及び教職員等に対し、心理的側面から専門的援助を行い、教育相談体制の充実を図ります。			
事業内容	○スクールカウンセラーの配置 全小中学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県費配置4人に加え市費による配置時間の上乗せを行い、適時の相談支援に努める。</li> </ul>			
達成状況	県から配当された相談時間では十分な対応できないため、不足分を市費で上乗せし対応しました。 <b>【参考】</b> 相談件数 小学校延べ534件（H21:468、H22:555件） 中学校延べ859件（H21:884、H22:702件） 相談配当時間 県費 911時間（H21:822、H22:782時間） 市費 288時間（H21:233、H22:256時間）			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> スクールカウンセラー他関係機関等と連携した支援による、不登校、不適應への早期対応が求められていますが、十分な人的配置が確保されているとは言えない状況にあります。 <b>【方向性】</b> 県の配当時間を増やすよう働きかけるとともに、市としても必要な時間について対応していきます。			
自己評価	b			

## 第2節 生涯学習・芸術文化の振興

### 2-1：生涯学習の振興

自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりを進めます。

ライフスタイルの多様化などにより、生涯学習に対するニーズや関心は、ますます高まっています。第1次伊那市総合計画に基づき平成22年度末に策定した、生涯学習の総合的な指針「生涯学習基本構想」の基本理念「共に学び、今に生かし、更に深め、未来へとつなぐ」に基づき、生涯学習事業を推進します。

#### (1)生涯学習・社会教育の推進

事務事業	No.17	市民大学	H23年度決算額	2,605千円
事業の目的	市民の生涯学習の機運を醸成し、生涯学習を推進するため、学習要求に応えた各種講座を開催します。			
事業内容	○講座の実施 ・芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	受講者は、各学年定員を超過している状況で、市民の学習要求の高さが現れています。この学習要求に応えるため、学生による自主運営を行いながら、講座内容の充実を図っています。			
	平成23年度 講座内容			
	「南大東島への訪問から学ぶ」(講師：小林史麿呂、斧研つね子)			
	「オーストラリアと日本の教育の違い」(講師：北原アンドレア)			
	「トークと語りべの世界」(講師：美咲蘭)			
	ふるさと講座「手良の歴史と文化」(講師：北原明、宮原達明)			
	「三番叟、神霊矢口乃渡し〜頓兵衛内の段」(公演：早稲田人形浄瑠璃保存会)			
	信大出前講座「信州のわらべ歌と童謡・唱歌の変遷」(講師：中山裕一郎)			
	「健やかな心と体をつくる」(講師：中垣寿彦)			
	「野草講座・田の原天然公園の植物」(講師：柄山祐希)			
	「高度医療に命救われて」(講師：久保村清一 副学長)			
	「ジオパークについて」(講師：白鳥孝 学長)			
	人権同和教育講座「ふるさとを津軽三味線にのせ」(講師：長谷川一義)			
	「菓子創りは夢創り」(講師：清水慎一)			
	「心と身体まるごと元気」(講師：山岸洋子)			
	「伊那谷のブッポウソウ」(講師：小口泰人)			
	「新春・楽しいお手玉」(講師：亀山ちず子)			
	「ことばのぬくもり届けたい」(講師：堀井正子)			
	「健康導引養生功」(講師：佐藤省三) ほか10講座 計27講座			
	事業の課題及び方向性	【課題】 変化する社会に適応できる力をつけるために、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。		
【方向性】 受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、2年間の学習の成果が地域での活動にいかせるように促します。				
自己評価	b			

事務事業	No.18	桜大学	H23 年度決算額	509 千円
事業の目的	生活にうるおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習を推進します。			
事業内容	○講座の開催 ・4回開催(10月29日～12月4日:やますそ)			
達成状況	公民館活動のひとつとして実施され、33回目を迎えた伝統ある大学です。			
	平成23年度講座内容(講師)			
	「災害に備えるー気象庁勤務の経験からー」(元気象庁東京管区気象台長・鉢嶺 猛)			
	「桜と私」(東京藝術大学美術学部教授・中島千波)			
	「桜大学落語会 笑い与健康」(落語家・立川談幸)			
事業の課題及び方向性	【参考】受講者数 555 人 (H21: 1,130、H22: 750 人)			
	【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 【方向性】長年開催され、高遠町地域における生涯学習の場として定着しており、合併後、市民大学との共催講座なども実施し、伊那、長谷地域からの参加者も増えています。地域に縁がある方、地域について研究されている方などを講師に招き、地域の特性を生かした運営を行います。また、経費についても工夫しながら事業を進めます。			
自己評価	a			

事務事業	No.19	長谷生涯学習講演会	H23 年度決算額	100 千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	○講演会の開催(11月12日:長谷公民館) ・山村に生活していても、年1回は優良な講演を聴きたいとの要望に応え、公民館・小中学校・小中学校PTAが共催し、著名な講師を招き講演会を開催しています。			
達成状況	○平成23年度 講演「NHK スペシャルドラマ『坂の上の雲』制作の裏話」(講師:西村与志木氏) 講師が長谷村出身ということで多数の参加者があり、制作の裏側を知る事が出来たと参加者からは好評を得ました。また今回は、新伊那市誕生 5 周年記念事業と、「戸台の化石」保存会発足 25 周年記念事業と合わせて行いました。 【参考】受講者数 187 人 (H21:323、H22: 229 人)			
	【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 【方向性】長谷地域の 5 者(公民館・小中学校・小中学校PTA)が共催で毎年実施している事業です。長谷地区文化祭に併せて開催しており、過疎地に住む住民が質の高い文化に触れる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。			
自己評価	a			

## (2)公民館活動の推進

事務事業	No.20	集会施設整備事業補助	H23 年度決算額	4,762 千円	
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。				
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。 ・対象施設及び交付基準				
	施設区分	事業区分	補助要件等		
	公民館の分館 又は区が管理 運営する集会 施設	新築	補助率	工事費の 25%以内	
			補助限度額	最高 750 万円まで	
			最低事業費	100 万円以上	
		増築・改築・ 改修	補助率	工事費の 25%以内	
		補助限度額	最高 120 万円まで		
		最低事業費	50 万円以上		
	水洗化・ 耐震補強	補助率	工事費の 30%以内		
		補助限度額	最高 150 万円まで		
	最低事業費	50 万円以上			
町内会・常 会・組等が管 理運営する集 会施設	外構整備・ 舗装	補助率	工事費の 25%以内		
		補助限度額	最高 120 万円まで		
		最低事業費	50 万円以上		
	新築・増築	対象外			
改築・改修	補助率	工事費の 25%以内			
	補助限度額	最高 50 万円まで			
	最低事業費	25 万円以上			
水洗化・ 耐震補強	補助率	工事費の 30%以内			
	補助限度額	最高 60 万円まで			
	最低事業費	25 万円以上			
外構整備・ 舗装	補助率	工事費の 25%以内			
	補助限度額	最高 50 万円まで			
	最低事業費	25 万円以上			
達成状況	集会施設の公共性を考慮し、対象工事の経費の一部を補助しました。 【参考】補助施設数 8 件 4,762 千円 (H21: 6、H22: 8 件) ○平成 23 年度から、合併前の 3 市町村の交付要綱を統一した、新要綱を運用しています。				
事業の課題 及び方向性	【課題】地元要望がある施設については計画的に改築等を進める必要があります。 他の同様な補助事業主管課との調整が必要です。 【方向性】集会施設等は、地域住民の福祉の向上、コミュニティ活動の推進、災害時の拠点の確保などに資する事業であるため、予算の範囲内で計画的に、費用の一部を補助します。				
自己評価	b				

事務事業	No.21	公民館建設（施設管理）	H23 年度決算額	0 千円
事業の目的	地域の生涯学習の拠点整備や地域コミュニティーの形成など地域づくりを推進するため、老朽化した公民館を計画的に建設します。 また、公民館の施設維持に必要な改修等を行いません。			
事業内容	○施設改築 西箕輪公民館、伊那公民館、手良公民館の建て替えについて順次計画を策定 ○施設改修等整備			
達成状況	○本年度は、実施計画に沿って西箕輪公民館建設用地の決定にむけて調整を行いました。			
事業の課題及び方向性	【課題】西箕輪公民館、伊那公民館、手良公民館の建て替えを計画的に進める必要があります。 【方向性】有利な財源を確保しながら計画的に建築を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.22	公民館共同事業	H23 年度決算額	7,367 千円
事業の目的	青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市的に図るため、未就園・未就学の子ども、小学生とその家庭などを対象に、9公民館が共同して子ども向けの事業を実施します。 地域の公民館分館活動を支援するとともに、地域理解を深めるため「ふるさと講座」の開催し、公民館活動への理解を深めてもらうため広報誌を発行します。			
事業内容	○そまっこクラブの開催 ○「キッズ王国」(小学生以下対象)などの開催 ○分館活動委託事業の実施 ○「公民館報いな」の発行 ○新伊那市誕生5周年記念講演会			
達成状況	各事業への参加者は多く、集団の中で異年齢の子どもたちは「体験」を通して多くを学び、それぞれの事業目的が達成されています。 ○「そまっこクラブ」(2回実施1回雨天中止)を開催(参加者延べ 70 人) ○「キッズ王国」(394 人) ○「ふるさと講座(手良・美篤)」(290 人) ○84 分館に活動委託 ○館報隔月発行第398号～第403号 ○なだいなだ先生、宮脇昭先生講演会(200 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】児童の居場所づくりや、「体験」「子ども主体の活動」の場としてニーズが高い事業であるため、地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。 【方向性】縦社会の再構築を願って「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について公民館全体で共同事業として取り組みます。また、支援ボランティアの確保を進めます。			
自己評価	a			

進徳館小学生夏の学校  
(高遠町公民館)



事務事業	No.23	公民館事業	H23 年度決算額	4,400 千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいつくりや地域づくりを推進するため、市内9公民館において、教室・講座・イベントなどを開催します。			
事業内容	高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催			
達成状況	各地域の特色や住民要望に応えた公民館活動が行なわれ、生涯学習の推進と地域づくりの役割を果たしています。			
	公民館	平成 23 年度活動内容(特徴的なもの)		
	伊 那	夏休みおいで塾、小学生将棋教室、らっこルーム、伊那おやじの会、絵手紙教室、陶芸教室、元旦ジョギング、野草講座、探鳥会など		
	富 県	夏休み・富県こどもおいで塾、こども公民館書道教室、富県と良寛さん、富県ふるさと祭、高鳥谷山区民ハイキング、生きもの探検隊など		
	美 躰	親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、場広山ハイキング、男の料理教室、母から娘へ伝えたい味講習会、童謡・唱歌の集いなど		
	手 良	わいわいくらぶ、勸智塾、俳句教室、野草講座、地区大運動会、文化芸能発表会、文化祭、ゴルフ教室、など		
	東春近	子ども体験教室、楽生学級、フォークソング奏で隊、チャレンジおっとこ塾、童謡唱歌を楽しむ会、森の音楽祭、区民ハイキングなど		
	西箕輪	友だち土曜日クラブ、サッカー教室、通学合宿、脳イキイキ出前講座、夏・秋・冬の自然観察会、高原マラソン大会、星空観察会など		
	西春近	西春近てらこや塾、ハーモニカ講座、父居屋の会、かるがも学級、女論の会、権現山区民登山、マレットゴルフ大会、文化祭、趣味の会発表会など		
	高 遠	進徳館夏の学校、高遠中学校通学合宿、里山の文化を歩く講座、さくらんぼきっず、桜大学講座、そば打ち講座、やさしい論語教室など		
	長 谷	はせっこサマースクール、入野谷講座、戸台の化石学習会、ソフトテニス教室、くじらくらぶ、小粋なカーチャン、おさんぽくらぶなど		
【参考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数数 162,939 人 (H21:170,508、H22: 171,754 人)				
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】生活に結びついた公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進める必要があります。</p> <p>【方向性】(1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。</p> <p>(2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切にし、仲間づくりと地域の交流を進めます。</p> <p>(3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。</p>			
自己評価	b			

### (3)図書館の充実

事務事業	No.24	蔵書管理	H23年度決算額	27,604千円																																																			
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																																						
事業内容	○図書館資料の管理（選書、発注、装備・修理、廃棄） ○空間（書架などの配置・案内表示） ○図書館システムの維持・管理と更新																																																						
達成状況	<p>優良図書の整備に努めるとともに、市民の知の拠点として定着しています。</p> <p>○平成23年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館視聴覚用プロジェクター他の更新（伊那）</li> <li>・書架等の館内整備を行いました。（伊那・高遠）</li> <li>・前年度に引き続き、古文書デジタル化を進めました。（高遠）</li> </ul> <p><b>【参考】</b> 蔵書数は図書のみ、（ ）内 H22</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>蔵書冊数</th> <th>貸出冊数</th> <th>登録者数（個人）</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td> <td>208,978 (203,757)</td> <td>372,747 (372,100)</td> <td>55,136 (53,755)</td> <td>78,043 (76,874)</td> </tr> <tr> <td>高遠図書館</td> <td>92,012 (91,184)</td> <td>51,777 (54,377)</td> <td>5,999 (5,702)</td> <td>11,206 (11,403)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・他市町村比較表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人口一人当たり 蔵書冊数（冊）</th> <th>人口一人当たり 貸出冊数（冊）</th> <th>登録率％ （登録者数／人口）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那市</td> <td>4.3</td> <td>6.0</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>駒ヶ根市</td> <td>5.1</td> <td>6.3</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>辰野町</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>箕輪町</td> <td>2.9</td> <td>4.2</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>飯島町</td> <td>7.3</td> <td>6.0</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>南箕輪村</td> <td>5.4</td> <td>7.8</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>中川村</td> <td>11.4</td> <td>6.5</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>宮田村</td> <td>6.5</td> <td>5.8</td> <td>68</td> </tr> </tbody> </table>				名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	208,978 (203,757)	372,747 (372,100)	55,136 (53,755)	78,043 (76,874)	高遠図書館	92,012 (91,184)	51,777 (54,377)	5,999 (5,702)	11,206 (11,403)		人口一人当たり 蔵書冊数（冊）	人口一人当たり 貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）	伊那市	4.3	6.0	79	駒ヶ根市	5.1	6.3	47	辰野町	4.0	4.0	75	箕輪町	2.9	4.2	45	飯島町	7.3	6.0	85	南箕輪村	5.4	7.8	67	中川村	11.4	6.5	92	宮田村	6.5	5.8	68
名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数																																																			
伊那図書館	208,978 (203,757)	372,747 (372,100)	55,136 (53,755)	78,043 (76,874)																																																			
高遠図書館	92,012 (91,184)	51,777 (54,377)	5,999 (5,702)	11,206 (11,403)																																																			
	人口一人当たり 蔵書冊数（冊）	人口一人当たり 貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）																																																				
伊那市	4.3	6.0	79																																																				
駒ヶ根市	5.1	6.3	47																																																				
辰野町	4.0	4.0	75																																																				
箕輪町	2.9	4.2	45																																																				
飯島町	7.3	6.0	85																																																				
南箕輪村	5.4	7.8	67																																																				
中川村	11.4	6.5	92																																																				
宮田村	6.5	5.8	68																																																				
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 市民の「知の拠点」として、多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに、図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 調査・研究・資料の収集整理をし、情報提供を積極的に行ないます。また、イベントなどを通して、親しみやすい図書館になるよう努めます。</p>																																																						
自己評価	b																																																						

事務事業	No.25	図書館イベント	H23年度決算額	805千円
事業の目的	幅広い世代が「実感・体感」を伴った知の獲得と創造する営みの楽しさを得るため、各種イベントを開催するとともに、ボランティアなどの人材育成を推進します。			
事業内容	○おはなしのひろばの開催（職員、ボランティアによる読み聞かせ） ○ブックスタートの実施（乳児へ絵本のプレゼント） ○各種講座 児童対象：おはなしのひろば、おりがみ教室、工作教室など 一般対象：絵本作家講演会、図書館講座など ○スキルアップ講座（選書、読み聞かせ、朗読、図書館ボランティア育成） ○利用者団体への支援			
達成状況	各種イベントや講座の参加者が増加しており、市民にが親しみやすい図書館が定着してきています。 <b>【参考】</b> ブックスタート 558人（H21:634、H22:576人） イベント 237回 6,041人（H21:245回 8,751人、H22:219回 6,125人） 広域情報コーナー利用 16団体（H21:27、H22:20団体）			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 市民に身近な図書館となるために、市民との協働による図書館運営を図る必要があります、そのきっかけを作る講座などを企画する必要があります。 <b>【方向性】</b> 市民と協働しながら、イベントや講座など魅力ある図書館運営を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.26	図書館分館	H23年度決算額	7,935千円																																			
事業の目的	地区住民の図書館利用の利便を図るため、地区公民館に図書室を設置し、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																						
事業内容	○図書館分館（公民館図書室）の運営と管理 ○公民館の改築にあわせて図書館分館の設置 西箕輪、手良（移設）																																						
達成状況	図書館分館の増加とともに、利用者も増えています。 ○平成23年度は、各公民館図書館の図書資料の整備を行いました。 4,350冊 <b>【参考】</b> 蔵書数は図書のみ、( )内 H22																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>蔵書冊数</th> <th>貸出冊数</th> <th>登録者数(個人)</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東春近</td> <td>20,275 (20,158)</td> <td>28,679 (29,516)</td> <td>2,949 (2,878)</td> <td>4,755 (4,983)</td> </tr> <tr> <td>富 県</td> <td>14,831 (14,520)</td> <td>20,818 (19,218)</td> <td>1,715 (1,665)</td> <td>3,924 (3,616)</td> </tr> <tr> <td>手 良</td> <td>9,881 (10,087)</td> <td>15,957 (16,522)</td> <td>1,114 (1,066)</td> <td>2,316 (2,399)</td> </tr> <tr> <td>長 谷</td> <td>9,865 (9,338)</td> <td>3,632 (5,240)</td> <td>494 (466)</td> <td>759 (1,141)</td> </tr> <tr> <td>美 篤</td> <td>13,809 (12,234)</td> <td>27,422 (26,800)</td> <td>3,205 (3,060)</td> <td>5,439 (5,061)</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>68,661 (66,337)</td> <td>96,508 (97,296)</td> <td>9,477 (9,333)</td> <td>17,193 (17,200)</td> </tr> </tbody> </table>				名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数(個人)	利用者数	東春近	20,275 (20,158)	28,679 (29,516)	2,949 (2,878)	4,755 (4,983)	富 県	14,831 (14,520)	20,818 (19,218)	1,715 (1,665)	3,924 (3,616)	手 良	9,881 (10,087)	15,957 (16,522)	1,114 (1,066)	2,316 (2,399)	長 谷	9,865 (9,338)	3,632 (5,240)	494 (466)	759 (1,141)	美 篤	13,809 (12,234)	27,422 (26,800)	3,205 (3,060)	5,439 (5,061)	合 計	68,661 (66,337)	96,508 (97,296)	9,477 (9,333)	17,193 (17,200)
名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数(個人)	利用者数																																			
東春近	20,275 (20,158)	28,679 (29,516)	2,949 (2,878)	4,755 (4,983)																																			
富 県	14,831 (14,520)	20,818 (19,218)	1,715 (1,665)	3,924 (3,616)																																			
手 良	9,881 (10,087)	15,957 (16,522)	1,114 (1,066)	2,316 (2,399)																																			
長 谷	9,865 (9,338)	3,632 (5,240)	494 (466)	759 (1,141)																																			
美 篤	13,809 (12,234)	27,422 (26,800)	3,205 (3,060)	5,439 (5,061)																																			
合 計	68,661 (66,337)	96,508 (97,296)	9,477 (9,333)	17,193 (17,200)																																			
	・施設利用率（各地区登録者数/分館設置地区の人口）46.3% (H21:42.7、H22:45.1%)																																						
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> より身近な地域の図書館として、子どもから高齢者までの利用者の利便を図る必要があります。 <b>【方向性】</b> ボランティアとの協働により休室日を解消するなど、利用しやすい図書室運営について検討するとともに、未設置公民館への図書館サービスについて検討を進めます。																																						
自己評価	b																																						

#### (4)生涯学習センターの充実

事務事業	No.27	生涯学習センター	H23 年度決算額	82,954 千円												
事業の目的	市民に生涯学習の機会を提供するとともに、中心市街地の活性化と活力あるまちづくりを推進するため、生涯学習センターを適正かつ円滑に管理運営します。															
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設管理 生涯学習センター部分は直営で管理し、ビル共用部分は共益費を負担して「いなっせ管理組合」が管理</li> <li>○貸し館業務</li> <li>○自主事業の運営</li> </ul>															
達成状況	<p>利用者数に若干の変動はあるものの、自主事業などに多数の参加があり、貸し館としての稼働率も高く、中心市街地の誘客に役割を果たしています。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">平成 23 年度 自主事業 (内容)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術文化体験教室 (コーヒー講座、イタリア料理、フラダンスほか 19 講座)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、美術展の部)</td> </tr> <tr> <td>第 7 回伊那谷伝統文化公演「如月花神楽、荒井神社浦安の舞」</td> </tr> <tr> <td>音楽公演事業 (「金子三勇士ピアノリサイタル」ほか 7 事業)</td> </tr> <tr> <td>四季のコンサート (「音楽史コンサートⅦ」ほか 4 事業)</td> </tr> <tr> <td>青少年音楽事業 (「若い芽を育てる音楽会～矢野雄太～」ほか 6 事業)</td> </tr> <tr> <td>フライデーコンサート (「花コンサート～vol.3 さざんか～」ほか 1 事業)</td> </tr> <tr> <td>軒下コンサート (ミッション・アポーヨ、羅漢歌 ほか 2 団体)</td> </tr> <tr> <td>語学教室 (英語で観光ガイド入門編、日本語教室さくら組、初級・中級 韓国語講座)</td> </tr> <tr> <td>自主企画教室 (大人のためのピアノ教室ほか 8 講座)</td> </tr> <tr> <td>自主企画イベント (第 9 回春休み子ども人形劇場)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】 利用室数 9,619 コマ (H21:9,582、H22:9,307 コマ)          利用者数 171,780 人 (H21:176,135、H22:165,459 人)          各室平均稼働率 57.6% (H21:57.8、H22:56.0%)</p>				平成 23 年度 自主事業 (内容)	芸術文化体験教室 (コーヒー講座、イタリア料理、フラダンスほか 19 講座)	第 8 回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、美術展の部)	第 7 回伊那谷伝統文化公演「如月花神楽、荒井神社浦安の舞」	音楽公演事業 (「金子三勇士ピアノリサイタル」ほか 7 事業)	四季のコンサート (「音楽史コンサートⅦ」ほか 4 事業)	青少年音楽事業 (「若い芽を育てる音楽会～矢野雄太～」ほか 6 事業)	フライデーコンサート (「花コンサート～vol.3 さざんか～」ほか 1 事業)	軒下コンサート (ミッション・アポーヨ、羅漢歌 ほか 2 団体)	語学教室 (英語で観光ガイド入門編、日本語教室さくら組、初級・中級 韓国語講座)	自主企画教室 (大人のためのピアノ教室ほか 8 講座)	自主企画イベント (第 9 回春休み子ども人形劇場)
平成 23 年度 自主事業 (内容)																
芸術文化体験教室 (コーヒー講座、イタリア料理、フラダンスほか 19 講座)																
第 8 回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、美術展の部)																
第 7 回伊那谷伝統文化公演「如月花神楽、荒井神社浦安の舞」																
音楽公演事業 (「金子三勇士ピアノリサイタル」ほか 7 事業)																
四季のコンサート (「音楽史コンサートⅦ」ほか 4 事業)																
青少年音楽事業 (「若い芽を育てる音楽会～矢野雄太～」ほか 6 事業)																
フライデーコンサート (「花コンサート～vol.3 さざんか～」ほか 1 事業)																
軒下コンサート (ミッション・アポーヨ、羅漢歌 ほか 2 団体)																
語学教室 (英語で観光ガイド入門編、日本語教室さくら組、初級・中級 韓国語講座)																
自主企画教室 (大人のためのピアノ教室ほか 8 講座)																
自主企画イベント (第 9 回春休み子ども人形劇場)																
事業の課題及び方向性	<p>【課題】学習及び文化活動を通し市民相互の交流を促進するとともに、中心市街地の活性化に効果のある施設の運用について、更に検討する必要があります。</p> <p>【方向性】利用者ニーズにあった自主事業を推進します。また、開館日数、開館時間など利用者の利便を図るとともに、利用者の意見を反映させることができる管理運営方法について検討を進めます。</p>															
自己評価	b															

軒下コンサート



## (5)人権同和教育の推進

事務事業	No.28	社会人権同和教育	H23年度決算額	2,380千円
事業の目的	人権問題に対する理解を促進し、全ての人の基本的人権を尊重するため、人権問題について学習する機会を提供します。			
事業内容	<p>○人権問題についての講演会、巡回講座、学習講座を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同和問題だけでなく、いじめなどの問題も含め、人権問題について学習する機会を提供します。</li> <li>・人権同和教育講座・学級などの開催</li> <li>・情報紙「えがお」の発行</li> </ul>			
達成状況	<p>公民館等と連携して開催している講座・学級が定着し、幅広い世代で人権問題に対する理解が図られています。</p> <p>【参考】講演会3回(646人) (H21:3回(532人)、H22:3回(823人))          公民館人権講座11回(456人) (H21:11回(823人)、H22:10回(538人))          人権同和教育学級32回 (H21:42、H22:39回)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】同和対策関係特別措置法は失効しましたが、基本的人権を尊重し、同和問題のみならず、「いじめ」など全ての差別を防止する必要があります。</p> <p>【方向性】市民の重要課題として、人権教育の場や情報を提供などの啓発活動を進めます。人権同和教育学級については、受講者の意向により、23年度で休会とします。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.29	学校人権同和教育	H23年度決算額	1,552千円
事業の目的	発達段階に応じ、人権の意義、内容や重要性について理解し、自他の大切さを認めることができる人権感覚を培い、自ら解決する意欲と実践力を持つ子どもたちを育てることを目標に、教育活動全体を通じ計画的に推進します。			
事業内容	<p>○学校人権同和推進協議会の開催(年4回、研修会・研究授業など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校から1名の委員 委員長 副委員長 計24人</li> </ul> <p>○副読本「あけぼの」を小学1・3・5年生と中学1年生へ配布</p> <p>○人権教育プログラム(CAP)ワークショップ実施</p>			
達成状況	<p>各学校で副読本「あけぼの」を活用し、人権を身近な問題として取り組んでいます。</p> <p>CAPワークショップを8小学校で実施しました。 (児童400人、保護者、教職員167人参加)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】経済状況の悪化、いじめ、校内暴力、児童虐待等、子どもたちを取り巻く環境は、ますます深刻なものとなっています。また、子どもたちのコミュニケーション力、自尊感情の低下等が懸念されています。</p> <p>【方向性】教職員が豊かな人権感覚を持ち、人権尊重の理念に基づいた人権教育を実践する力量を高めるよう、教職員研修の充実に努めるとともに、子どもたちの実体験の機会を増やす等豊かな人間性の育成に努めていきます。</p>			
自己評価	b			

## 2-2：青少年健全育成と家庭教育の充実

青少年の健全育成に向けて、地域で青少年を育てる環境づくりを進め、あわせて学校、行政、地域一体となった家庭教育の充実策に取り組みます。

### (1)青少年の健全育成

事務事業	No.30	学童クラブ	H23 年度決算額	49,069 千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	○学童クラブの設置 伊那小(2クラブ)、伊那東小(2クラブ)、伊那北小(2クラブ)、富県小、美篤小、手良小、東春近小、西箕輪小、西春近北小、西春近南小、高遠小、高遠北小、長谷小の 13 校に開所			
達成状況	入所者が多い伊那小・伊那東小・伊那北小学童クラブは2クラブ体制で対応しています。 【参考】学童クラブ 16 箇所 (H21:15、H22: 15 箇所) 入所者数 494 人 (H21:461、H22:471 人) クラブ設置小学校数／小学校数 87% (H21: 80、H22:80%) 入所者数／児童数 12.2% (H21:11.1、H22: 11.4%)			
事業の課題及び方向性	【課題】保護者の就労支援や児童の健全育成のためニーズが高まっています。 【方向性】大規模クラブの解消(分割)や老朽・狭隘施設の整備、開所日数の拡充、指導員の確保など学校や地域等と連携を図りながら課題を解決し、事業の充実を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.31	子ども週末活動の支援	H23 年度決算額	1,559 千円
事業の目的	週末の子どもの居場所づくりの一環として、体験活動を通して「ものの見方、考え方、協力、自主性」などを身に付けるとともに、地域で主体的に活動できるジュニア・リーダーの育成を図ります。			
事業内容	○はなまる地域探検隊の設置 ・概ね小学3年生以上の市内小中高校生が交流			
達成状況	学年の枠を越えた仲間の中で、協力し合い、多くのことを体験することにより、地域で自分たちが活躍できる資質を身に付けています。 ○平成23年度の主な活動 ・わんぱく広場参加、ウォークラリー参加、ニュースポーツ、さつまいも定植、アカデミック体験、施設探検、国際交流など。 ・はなまる探検隊から育った高校生が推進委員として企画・運営へ参加している。 【参考】はなまる地域探検隊登録者数 59 人 (H21:75、H22: 45 人) 児童数に占める割合(登録者数／児童数) 1.2% (H21:1.8、H22: 1.1%)			
事業の課題及び方向性	【課題】子どもの居場所、縦割りの仲間づくりに重要な組織。今後の支援、関わり方 【方向性】設立から9年が経過し、平成24年度より「はなまる探検隊」として自主的な運営を期待し、委託事業として継続していく。			
自己評価	b			

事務事業	No.3 2	少年補導委員会・少年補導センター	H23 年度決算額	1,131 千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図り、街頭指導などを実施します。			
事業内容	○少年補導センター及び補導委員の配置 ・少年補導センターの運営 ・補導委員は、55 人を 11 班に編成し、毎週土曜日と第 3 日曜日に街頭指導を実施するとともに、学校の長期休暇中は特別街頭指導を実施。 ・「補導センターだより」の発行（年 2 回）			
達成状況	街頭指導による指導件数は増加傾向にあり、指導が非行防止の一助となっています。 <b>【参考】</b> 補導活動延べ人員 461 人（H21:447、H22: 443 人） 指導（声かけ）件数 198 件（H21:440、H22: 96 人） （1 日あたり 2.3 件（H21:5.1、H22:1.1 件））			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 子どもを非行へ誘惑する要因が増えるとともに、子どもの規範意識が薄くなっています。 <b>【方向性】</b> 少年を取り巻く環境は多様化しており、少年の健全育成を図るため、引き続き補導委員会を中心に地域が子どもを見守る体制づくりを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.3 3	子ども会・育成会	H23 年度決算額	2,493 千円
事業の目的	青少年の健全育成事業を推進するため、各地区 34 子ども会・育成会が子どもに係る各種事業を行います。			
事業内容	○地区における青少年の健全育成及び家庭教育推進活動 ○子どもの安全、有害環境の排除 ○よりよい教育環境推進協議会などへ参画			
達成状況	子どもにかかわる組織として地域に定着しており、各地域の実情に応じた活動を実施しています。 ○平成 23 年度事業 魚つかみ大会、花いっぱい運動、飯盒炊飯・キャンプ、どんど焼き、子ども神輿、天神様、まんど作り、しめ縄作り、子ども球技大会、夏祭り・花火大会、その他に子ども映画会、クリスマス会、資源回収、朝の清掃等			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 地域全体で子どもを育てるという環境整備が求められています。 <b>【方向性】</b> 子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っています。しかし、地区によっては、過疎化、高齢化による組織的な問題も生じているため、委託料について見直しを進めます。			
自己評価	b			



学童クラブの様子

事務事業	No.34	成人式	H23年度決算額	1,129千円
事業の目的	新成人を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を執り行います。			
事業内容	○成人式の実施 ・公民館単位10地区で実施			
達成状況	○平成21年度から伊那地域においても公民館単位での実施に変更しました。			
	【参考】( )内 H22			
	地 区	実施日	対象者	出席者 出席率
	竜 西	8月15日	162人 (184人)	107人 (125人) 66.0% (67.9%)
	竜 東	8月15日	217人 (223人)	126人 (126人) 58.1% (56.5%)
	富 県	8月15日	26人 (28人)	19人 (20人) 73.1% (71.4%)
	美 篤	8月15日	82人 (90人)	67人 (60人) 81.7% (66.7%)
	手 良	8月14日	19人 (28人)	15人 (18人) 78.9% (64.3%)
	東春近	8月15日	74人 (67人)	57人 (53人) 77.0% (79.1%)
	西箕輪	8月15日	74人 (80人)	50人 (49人) 67.6% (61.3%)
	西春近	8月15日	89人 (89人)	59人 (70人) 66.3% (78.7%)
	高遠町地区	1月 2日	65人 (69人)	52人 (60人) 80.0% (87.0%)
	長谷地区	1月 1日	19人 (25人)	16人 (24人) 84.2% (96.0%)
※伊那地区（竜西～西春近）計 67.3% （H21:63.9、H22: 66.0%）				
事業の課題 及び方向性	【課 題】 地元の皆さんから祝福される身近で参加しやすい成人式が求められています。 【方向性】 公民館単位での実施は、3年が経過しましたが、参加者や公民館の意見を踏まえ実施方法については、更に検討を進めます。			
自己評価	b			

竜東地区成人式



## 2-3：文化の振興

文化芸術施設の整備及び充実を図り、文化芸術の鑑賞機会の充実や意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

### (1)文化事業などの充実

事務事業	No.35-1	伊澤修二記念音楽祭	H23年度決算額	6,017千円
事業の目的	伊澤修二先生を顕彰するとともに、東京藝術大学との交流を通し、地域文化の振興を図ります。			
事業内容	<p>○伊澤修二記念音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高遠町出身で東京藝術大学の前進である東京音楽学校の初代校長を勤めた伊澤修二先生を顕彰する音楽祭。昭和62年の東京藝術大学創立百周年を機に、旧高遠町で第1回が開催され、秋恒例の音楽祭となっている。</li> </ul> <p>○東京藝術大学学生による吹奏楽指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内中学校・高等学校の吹奏楽部員を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会。</li> </ul>			
達成状況	東京藝術大学との音楽交流や日頃の練習の成果を発表する機会の創出が図られました。第20回記念としてレセプションを開催し、藝大関係者を含む音楽祭関係者同士がより交流を深めました。 【参考】入場者数 2,150人 (H21:1,200、H22: 2,200人)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】伊澤修二先生を縁とする東京藝術大学とのつながりを大切に、地域文化の振興にいかす必要があります。</p> <p>【方向性】東京藝術大学の優れた音楽に触れ、また市内中学生が指導を受けるよい機会になっています。伊那市固有の音楽祭として発展させるため、積極的なPRを図っていきます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.35-2	い〜な音楽祭	H23年度決算額	296千円
事業の目的	コーラスグループを中心に合唱の発表機会を提供し、音楽を通じた相互交流を深めます。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各音楽団体の代表者により構成された実行委員会が運営し、一般や学校関係団体から参加を募り、一般市民の入場も呼びかけて県伊那文化会館で開催される市内合唱グループの発表会。</li> </ul>			
達成状況	実行委員自らの企画運営により、互いの参加団体が協力し合いながら、費用を掛けずに充実した音楽祭の開催を図ることができました。 【参考】参加団体数 23団体 (H21:19、H22: 22団体)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】身近な発表の場として、参加しやすい運営に努める必要があります。</p> <p>【方向性】今後も息の長い音楽祭となるよう、実行委員会の組織の充実と事業内容の充実を図ります。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.36	市民音楽祭	H23年度決算額	1,900千円
事業の目的	市民に良質な音楽と発表する場を提供するため、市民が企画し参加する音楽祭を開催します。			
事業内容	<p>①ふるさと芸能祭 ②手づくりの演奏会 ③生涯学習センターイベントの3事業を実施します。①と②は隔年で実施します。</p> <p>平成21年度事業 ・伊那節大会2009／ふるさと芸能祭 ・伊那市民音楽祭「ハーモニカは歌う」</p> <p>平成22年度事業 ・市民音楽祭「ストリングラフィ・アンサンブル公演」 ・手作りの音楽会「スターバト・マテル演奏会」</p> <p>平成23年度事業 ・伊那節大会2011／ふるさと芸能祭 ・手作りの音楽祭「オペラ春香」(開催準備補助)</p>			
達成状況	<p>内容などによって参加者にバラツキはありますが、良質な音楽を提供する音楽祭として定着してきています。</p> <p>【参考】入場者数200人(伊那節大会のみ) (H21:400、H22:1,128人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】市民音楽祭の目的である「手作り」「良質な音楽の提供」を基本に、特色ある運営をする必要があります。</p> <p>【方向性】市民が企画し、参加する音楽祭、良質な音楽の提供を進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.37	信州伊那井月俳句大会	H23年度決算額	407千円
事業の目的	伊那市を終焉の地とした漂泊の俳人井上井月を偲び、末永く顕彰するとともに、日本の伝統文化である俳句に親しみ、楽しんでもらうため、俳句大会を開催します。			
事業内容	<p>○第20回信州伊那井月俳句大会の開催(平成23年8月23日)</p> <p>・実行委員会を中心に俳句大会を企画・開催し、事前に募集した小中学生及び一般からの投句の中から、入賞作品の発表・表彰を行ないます。</p>			
達成状況	<p>平成18年度から高遠を会場に開催し、歴史や伝統文化の相互理解及び市民の一体感醸成に寄与しています。</p> <p>【参考】投句数7,716句(一般1,205句、小中学生6,511句) (H21:9,303、H22:6,901句) 一般参加者数198人 (H21:178、H22:200人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】俳人井上井月を顕彰するとともに、俳句に親しみ、俳句の普及を図る必要があります。大会も20回となり、業務の一部を民間団体に移管する等により、活性化を図ることを検討する必要があります。</p> <p>【方向性】井上井月、俳句を通じて全国的にアピールできる事業であるため、開催方法や内容を検討しながら更に発展させる必要があります。大会業務の一部の民間の井月研究団体への移管を検討します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.38	進徳館の日	H23年度決算額	236千円
事業の目的	進徳館教育の再発見をし、先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など(5月21日:進徳館、高遠閣) ○剣道大会(5月21日:高遠スポーツ公園文化体育館)			
達成状況	<p>実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。</p> <p>○平成23年度 第17回進徳館の日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五聖像に礼拝</li> <li>・式典</li> <li>・基調講話 高遠中学校 野溝和人校長「中学生に引き継がれている「進徳館」の心」</li> <li>・実践報告 高遠中学校 伊藤久志教諭 「高遠中学校の花作り」</li> <li>・学習報告 高遠中学校吹生徒 「合唱・吹奏楽」</li> <li>・基調講演「二十一世紀を生きる伊那のこどもたちへ」 講師 宗像 精氏(会津藩校日新館 館長)</li> </ul> <p>【参考】参加人数 200人 (H21: 200、H22: 200人)</p> <p>○平成23年度 第13回進徳館の日記念剣道大会</p> <p>【参考】参加チーム数 28チーム (H21: 29、H22: 28チーム)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業展開を行なう必要があります。</p> <p>【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造するとともに、広くPRすることによりこの事業の活用と面的な拡大を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.39	伊那能	H23年度決算額	200千円
事業の目的	日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ機会を提供します。			
事業内容	○「能」「狂言」公演の開催 ・平成2年に第1回を民間との協働により開催し、伊那市と県伊那文化会館が隔年で支援し、中学生の希望者を無料で招待しています。			
達成状況	<p>演目などにより入場者数の増減はありますが、日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ良い機会となっています。第20回目として、能楽美術展(入場者1,000人)、能楽ワークショップ等(参加者125人)記念事業を開催し、補助を行いました。</p> <p>○第20回伊那能(平成23年11月13日開催)</p> <p>【参考】入場者数 900人 (H21:850、H22: 800人)、 補助金 200千円 (H21:0、H22: 475千円)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】日本の伝統芸能である「能」と「狂言」を鑑賞できる機会であり、継続のためには、分かりやすい内容で底辺の拡大を図る必要があります。</p> <p>【方向性】実施主体である民間との協働を基本に、分かりやすいものになるように鑑賞講座、ワークショップなどを取り入れながら、県伊那文化会館とも連携し継続開催します。</p>			
自己評価	a			

## (2)博物館などの整備・活用

事務事業	No.40	創造館	H23年度決算額	35,787千円														
事業の目的	市民の憩いの場及び生涯学習の場として、施設の管理・運営を行うとともに、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関するユニークで独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。																	
事業内容	① 自主事業 ・講演会、講座等の開催 ② 展示関係 ・常設展、企画展3回、逸品展3回 ③ 貸館業務 ・学習室、体験教室1、体験教室2、会議室、講堂 ④ 資料の保管		マスコットキャラクター 「つくルン」															
達成状況	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">平成23年度 事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【講演会】</td> <td>開館1周年記念フォーラム、第4回企画展特別講演会、第5回企画展特別トークショー、逸品展(その4)記念講演会、第6回企画展ギャラリートーク、星と宇宙の教室公開講座 6回 参加者 336人</td> </tr> <tr> <td>【講座等】</td> <td>宇宙の学校(4回)、縄文体験教室(4回)、風車を作って環境問題を学ぼう、南アルプスジオパークを巡る冒険、黒曜石ミュージアムと宇宙空間観測所見学ツアー、歩いて学ぼうふるさとの歴史、星と宇宙の教室(月の観察会、小惑星探査プロジェクト4回) 9講座 18回 延参加者 714人</td> </tr> <tr> <td>【常設展示】</td> <td>神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)</td> </tr> <tr> <td>【企画展展示】</td> <td>第4回企画展(修二が見た亜米利加)、第5回企画展(アポロは本当に月にいったのか?)、第7回企画展(マンガの間取りと建築模型展) 逸品展その2(レッドリストの植物たち)、逸品展その3(赤羽校長の眼鏡)、逸品展その4(井月の情景) 延観覧者 7,067人</td> </tr> <tr> <td>【貸館】</td> <td>延利用者 11,057人</td> </tr> <tr> <td>【参考】</td> <td>H23 開館日数 299日、利用者数 18,959人 H22 開館日数 257日、利用者数 14,733人(年度途中開館)</td> </tr> </tbody> </table>				平成23年度 事業内容		【講演会】	開館1周年記念フォーラム、第4回企画展特別講演会、第5回企画展特別トークショー、逸品展(その4)記念講演会、第6回企画展ギャラリートーク、星と宇宙の教室公開講座 6回 参加者 336人	【講座等】	宇宙の学校(4回)、縄文体験教室(4回)、風車を作って環境問題を学ぼう、南アルプスジオパークを巡る冒険、黒曜石ミュージアムと宇宙空間観測所見学ツアー、歩いて学ぼうふるさとの歴史、星と宇宙の教室(月の観察会、小惑星探査プロジェクト4回) 9講座 18回 延参加者 714人	【常設展示】	神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)	【企画展展示】	第4回企画展(修二が見た亜米利加)、第5回企画展(アポロは本当に月にいったのか?)、第7回企画展(マンガの間取りと建築模型展) 逸品展その2(レッドリストの植物たち)、逸品展その3(赤羽校長の眼鏡)、逸品展その4(井月の情景) 延観覧者 7,067人	【貸館】	延利用者 11,057人	【参考】	H23 開館日数 299日、利用者数 18,959人 H22 開館日数 257日、利用者数 14,733人(年度途中開館)
平成23年度 事業内容																		
【講演会】	開館1周年記念フォーラム、第4回企画展特別講演会、第5回企画展特別トークショー、逸品展(その4)記念講演会、第6回企画展ギャラリートーク、星と宇宙の教室公開講座 6回 参加者 336人																	
【講座等】	宇宙の学校(4回)、縄文体験教室(4回)、風車を作って環境問題を学ぼう、南アルプスジオパークを巡る冒険、黒曜石ミュージアムと宇宙空間観測所見学ツアー、歩いて学ぼうふるさとの歴史、星と宇宙の教室(月の観察会、小惑星探査プロジェクト4回) 9講座 18回 延参加者 714人																	
【常設展示】	神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)																	
【企画展展示】	第4回企画展(修二が見た亜米利加)、第5回企画展(アポロは本当に月にいったのか?)、第7回企画展(マンガの間取りと建築模型展) 逸品展その2(レッドリストの植物たち)、逸品展その3(赤羽校長の眼鏡)、逸品展その4(井月の情景) 延観覧者 7,067人																	
【貸館】	延利用者 11,057人																	
【参考】	H23 開館日数 299日、利用者数 18,959人 H22 開館日数 257日、利用者数 14,733人(年度途中開館)																	
事業の課題及び方向性	<p>【課題】事業の実施に際して、生涯学習センター、市立図書館、公民館等の社会教育施設との棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。子どもが興味を持ち、参加したくなるプログラムの作成が必要です。</p> <p>【方向性】自然科学、考古、宇宙、歴史、教育等を中心にユニークで魅力ある事業の企画・運営を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、市民等が利用しやすい館の運営に努めます。</p>																	
自己評価	a																	

宇宙の学校



事務事業	No.4 1	高遠町歴史博物館	H23 年度決算額	18,025 千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示します。また、市の観光にも寄与するため広く情報を発信し、資料の活用を通じた文化交流を図ります。			
事業内容	○歴史博物館の運営及び管理 ○常設展示			
	展示場所	展示内容		
	桜シアター	満開のタカトウコヒガンザクラの映像		
	山車展示室	貴船社山車や仲町山車など勇壮な山車と祭り		
	第1展示室	高遠城のジオラマや絵図などの高遠藩関係資料 高遠城主内藤家に伝わった家宝の兜や古文書		
	第2展示室 (特別展示)	藩校進徳館と「高遠の学」 伊澤修二・多喜男、中村弥六など地域が生んだ偉人たち 高遠石工と石仏師守屋貞治		
絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復元屋敷を展示			
○特別展の開催（下記）				
達成状況	○平成23年度特別展 魅力ある特別展を開催し、観光客の誘致にもつながっています。東日本大震災の影響から高遠城址公園の観桜期間中の入園者の減少に伴い博物館入場者数も減少傾向です。			
	テーマ	内容		
	第36回特別展 『新収藏品展～眠りからさめた郷土のお宝～』(3月26日～6月26日)	合併後新しい収蔵庫棟が完成し、新たに多くの貴重な史料が個人、地域から寄贈、寄託されました。郷土の歴史を知る機会として、地域に眠っていたこれらのお宝を展示・公開しました。		
	第37回特別展 『地域の文化財を知ろう3』 ～サンヨリコヨリ～(7月30日～8月28日)	伊那市指定無形民俗文化財指定。長い歴史の中で、洪水を鎮める神事から七夕様の神事へと結び付いた祭りの様子を、地元からお借りした関係資料や写真パネルを展示しました。		
第38回特別展 信州高遠・伊那に残る日露戦争の記憶(11月2日～H24.5月13日)	NHK ドラマ放送を機に脚光を浴びた「日露戦争」について、地域に残る関係資料を取り上げ、改めてこの戦争を地域の視点から見つめ直し、平和の大切を考える展示としました。			
【参考】 ・特別展開催数3回 (H21: 3、H22: 2回) ・年間入館者数 20,126 人 (H21:24,106、H22: 21,440 人)				
事業の課題及び方向性	【課題】市民の歴史文化の学習と教養の向上のために、所蔵資料の活用、情報発信、他市との文化交流を図る必要があります。 【方向性】市の歴史と文化に関する資料を収集・保管し、常設展示に加え、魅力ある特別展を開催します。そのためにも、専門知識を備え、企画運営力がある学芸員の配置について検討を進めます。(現在、臨時職員のための体制)			
自己評価	b			

事務事業	No.4 2	信州高遠美術館	H23 年度決算額	28,490 千円																
事業の目的	地域の方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。																			
事業内容	<p>○常設展 原田政雄画伯から寄贈された 668 点の作品を中心に、地元出身の中村不折、池上秀敏、江崎孝坪の作品や、平山郁夫、中川紀元などの作家の作品を展示</p> <p>○ギャラリー展 地元で活躍している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品を展示</p> <p>○特別展</p> <p>○アートスクール 東京藝術大学の学生、地元芸術家などの指導と協力を得て、人物クロッキー、風景画、陶芸などの講座を通年開催</p> <p>○ミュージアムコンサート 弦楽器や歌など国内外で活躍中の演奏家や地域で活躍している皆さんによるコンサート</p>																			
達成状況	<p>伊那市唯一の美術館として、芸術鑑賞にとどまることなく、芸術講座などを積極的に企画し、市民の芸術文化の向上に寄与しています。</p> <p>○平成 23 年度特別展</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テ</th> <th>マ</th> <th>内</th> <th>容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三浦輝峰展</td> <td></td> <td colspan="2">三浦輝峰氏は 1942 年に伊那市に生まれ、20 歳の頃から肖像画や風景画を描き始め 1969 年には全日本肖像画協会へ入会し、国内外を問わず数多くの著名人の肖像画を揮毫しました。透明感のある作風はとて高い評価を得ています。伊那市でも毎年長寿の記念として、市内最高齢者の肖像画を寄贈していただいております。</td> </tr> <tr> <td>平沢喜之助・榎木孝明展</td> <td></td> <td colspan="2">平沢喜之助氏は 1919 年、上伊那郡宮田村に生まれました。画風は筆やナイフ、時には指までも使い粘り強く対象の存在感を追求し、対象の存在感と向き合いながら描き出しています。キャンパスの表面に絵具を厚く積層させ、銃口なマチエールを作りあげていきました。地元上伊那の地の自然の中で平沢氏の世界を鑑賞していただければと思います。伊那食品工業株式会社より作品を借用して開催しました。 榎木孝明氏は鹿児島出身で、武蔵野大学に学び、劇団四季を経て俳優として映画・テレビ・舞台にて活躍する一方、水彩で旅のスケッチを描き続けています。今回は、伊那市出身の村沢氏の個展応援として、榎木氏の水彩作品の中から、日本と世界のスケッチ約 40 点を展示しました。</td> </tr> <tr> <td>斎藤清展</td> <td></td> <td colspan="2">斎藤清氏は福島県会津坂下町の出身で現代木版画の先駆者として評価されています。伊那市と会津若松市の親善交流が締結され今年度で 11 周年。更に名君保科正之公生誕 400 年にあたり、伊那市と会津若松市の親善交流を記念し、会津若松市から作品を借用して開催しました。</td> </tr> </tbody> </table>				テ	マ	内	容	三浦輝峰展		三浦輝峰氏は 1942 年に伊那市に生まれ、20 歳の頃から肖像画や風景画を描き始め 1969 年には全日本肖像画協会へ入会し、国内外を問わず数多くの著名人の肖像画を揮毫しました。透明感のある作風はとて高い評価を得ています。伊那市でも毎年長寿の記念として、市内最高齢者の肖像画を寄贈していただいております。		平沢喜之助・榎木孝明展		平沢喜之助氏は 1919 年、上伊那郡宮田村に生まれました。画風は筆やナイフ、時には指までも使い粘り強く対象の存在感を追求し、対象の存在感と向き合いながら描き出しています。キャンパスの表面に絵具を厚く積層させ、銃口なマチエールを作りあげていきました。地元上伊那の地の自然の中で平沢氏の世界を鑑賞していただければと思います。伊那食品工業株式会社より作品を借用して開催しました。 榎木孝明氏は鹿児島出身で、武蔵野大学に学び、劇団四季を経て俳優として映画・テレビ・舞台にて活躍する一方、水彩で旅のスケッチを描き続けています。今回は、伊那市出身の村沢氏の個展応援として、榎木氏の水彩作品の中から、日本と世界のスケッチ約 40 点を展示しました。		斎藤清展		斎藤清氏は福島県会津坂下町の出身で現代木版画の先駆者として評価されています。伊那市と会津若松市の親善交流が締結され今年度で 11 周年。更に名君保科正之公生誕 400 年にあたり、伊那市と会津若松市の親善交流を記念し、会津若松市から作品を借用して開催しました。	
テ	マ	内	容																	
三浦輝峰展		三浦輝峰氏は 1942 年に伊那市に生まれ、20 歳の頃から肖像画や風景画を描き始め 1969 年には全日本肖像画協会へ入会し、国内外を問わず数多くの著名人の肖像画を揮毫しました。透明感のある作風はとて高い評価を得ています。伊那市でも毎年長寿の記念として、市内最高齢者の肖像画を寄贈していただいております。																		
平沢喜之助・榎木孝明展		平沢喜之助氏は 1919 年、上伊那郡宮田村に生まれました。画風は筆やナイフ、時には指までも使い粘り強く対象の存在感を追求し、対象の存在感と向き合いながら描き出しています。キャンパスの表面に絵具を厚く積層させ、銃口なマチエールを作りあげていきました。地元上伊那の地の自然の中で平沢氏の世界を鑑賞していただければと思います。伊那食品工業株式会社より作品を借用して開催しました。 榎木孝明氏は鹿児島出身で、武蔵野大学に学び、劇団四季を経て俳優として映画・テレビ・舞台にて活躍する一方、水彩で旅のスケッチを描き続けています。今回は、伊那市出身の村沢氏の個展応援として、榎木氏の水彩作品の中から、日本と世界のスケッチ約 40 点を展示しました。																		
斎藤清展		斎藤清氏は福島県会津坂下町の出身で現代木版画の先駆者として評価されています。伊那市と会津若松市の親善交流が締結され今年度で 11 周年。更に名君保科正之公生誕 400 年にあたり、伊那市と会津若松市の親善交流を記念し、会津若松市から作品を借用して開催しました。																		

	<p>○ミュージアムコンサート 邦楽の調べ、コーダカプリチオーサコンサート、入江みよ子シャンソンリサイタル、川島成道ヴァイオリンリサイタル</p> <p>【参考】入館者数 12,869人 (H21:17,183、H22: 14,480人) コンサート入場者 280人 (H21:306、H22: 331人)</p>
事業の課題及び方向性	<p>【課題】所蔵美術芸術品の活用をはかるとともに、美術や芸術に関連する講座・教室など魅力ある事業の企画運営を進める必要があります。</p> <p>【方向性】収集、保管されている優れた作品を活かした展示を企画し、市民をはじめ広くPRします。また、魅力ある講座・教室を企画、貸し館事業(コンサート・展覧会・結婚式等)も進めて、芸術文化に触れ、美術館に親しんでもらえる機会を提供します。</p>
自己評価	b



ミュージアムコンサート



ギャラリー展の開催

### 第3節 文化財の保存・継承・活用

#### 3-1：文化財の保存・継承・活用

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、保護するだけでなく、積極的に公開し、活用します。また、地域の民俗芸能を継承する活動を支援します。

#### (1)文化財の保存・継承・活用

事務事業	No.43	史跡高遠城跡	H23 年度決算額	3,211 千円
事業の目的	<p>昭和 48 年に藩校進徳館を含め国指定史跡となった。それ以前の昭和 35 年にはコヒガンザクラ樹林が県の天然記念物に指定されており、4 月の観桜期には多くの観光客でにぎわう。</p> <p>合併後の新伊那市の歴史を共有するこの城跡の、価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備事業を行います。</p>			
事業内容	<p>○発掘調査などの実施</p> <p>・史跡高遠城跡保存管理計画等に基づき、復元時期を幕末に設定して復元整備を行います。また、城郭の状況を正しく理解し、開発等から埋蔵文化財を保護するとともに、史跡の復元のための調査を行い、記録報告書を作成します。</p>			
達成状況	<p>史跡高遠城跡保存管理計画、同整備基本計画、同整備実施計画に基づき整備を進めています。</p> <p>○平成 23 年度は、史跡高遠城跡整備委員会を発足し、開催しました。</p> <p><b>【参考】</b> 発掘面積 0 m<sup>2</sup> (H21:0、H22:0 m<sup>2</sup>)          史跡面積(126,210.48 m<sup>2</sup>)に対する発掘済み累計面積の割合 1.17%          (H21:1.17、H22: 1.17%)</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 整備実施計画の短期整備計画 (H17～) に基づき、残存遺構などの調査を進める必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 前期計画の調査結果に基づき、整備委員会の開催により後期整備実施計画の策定を進めます。</p>			
自己評価	b			

上空から見る城跡



事務事業	No.4 4	民俗資料館	H23 年度決算額	4,120 千円
事業の目的	市内の民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「なつかし館」と、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画運営します。			
事業内容	○なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施設名	内容等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みミシンなどの体験ができる。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示してある。		
	旧馬島家（県宝）	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示している。		
旧池上家（市指定文化財）	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、桁行9間梁行5間の町屋造り板葺きの妻入り住宅。特殊な町屋造りの家屋としては町内で最も古く、所蔵されている古文書も多い。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を勤めた。			
	○特別企画展示の開催（年2～3回） ○公民館と共催で体験講座を開催（4～5回）			
達成状況	○企画展 「ひなまつり展」（3/7～4/25）、「五月人形展」（4/25～6/2） ○体験講座（高遠町公民館と共催で実施） 古布を使った布草履づくり、手ぼうきづくり、くつしたカバーづくり、しめ飾りづくり、ねこづくり（2回）計6回  【参考】年間入館者数 4,685 人（H21:2,907、H22:4,799 人）			
事業の課題及び方向性	【課題】駐車場が整備され、観桜期間中の入館者が増加しました。更に、昔を体験できる施設として広くPRし、利活用を図る必要があります。 【方向性】「観て・触って・やってみる」をモットーに、魅力ある企画展、体験講座などを実施し、地域の皆さんに親しんでもらえる、観桜期以外にも集客できる運営に努めます。			
自己評価	b			

体験講座  
「手ぼうきづくり」



事務事業	No.4 5	旧井澤家住宅	H23 年度決算額	1,800 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	○管理及び運営を地元「伊那部宿を考える会」に委託 ○一般公開 ・建物の概要 木造一部2階建 建築延面積 389.88 m <sup>2</sup>			
達成状況	○平成 23 年度特別企画 「田楽座公演」、「所蔵品展」ほか 【参考】入館者数 1573 人 (H22: 822 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】 地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、魅力ある運営を進める必要があります。 【方向性】 地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を生かし、多くの来館者を誘客できるよう企画について継続して見直しを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 6	考古資料館	H23 年度決算額	179 千円
事業の目的	中央道発掘調査と市内の遺跡の発掘調査により出土した考古資料及び近世の絵馬（仲仙寺所有・市に寄託）を展示・公開することにより、歴史学習の場を提供します。			
事業内容	○考古資料（中央道発掘調査関連及び市内発掘調査）と近世の絵馬を展示・公開			
達成状況	上伊那郡内の小中学生の見学や、専門家（研究者）を中心とした考古学・歴史学研究のために活用されていますが、利用者が減少しています。 【参考】年間利用者数 361 人 (H22:146 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】 出土品の一部は創造館へ移しましたが、まだ貴重なものが残っています。また、近世の絵馬も残っています。 【方向性】 今後の施設のあり方については、地元の意見を聞きながら研究を進めます。			
自己評価	c			

事務事業	No.4 7	民俗文化の伝承	H23 年度決算額	6,350 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊りの習俗」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	中尾歌舞伎などの民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援事業を行っています。			
達成状況	平成 23 年度事業 ○羽広の獅子舞 衣装等更新補助（コミュニティ助成事業）を活用（羽広区） ○文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（文化庁）を活用（5 団体）			
事業の課題及び方向性	【課題】 地域の民族文化を伝承しようとする地域の活動や保存会を支援する必要があります。 【方向性】 有利な財源を確保しながら支援を進めます。			
自己評価	b			

## 第4節 スポーツ・レクリエーションの振興

### 4-1: 豊かなスポーツライフの実現

いつでも、どこでも、だれもがスポーツに親しみ、心身の健康の保持増進を図るとともに、活力ある地域社会を形成するため、生涯スポーツを推進し、市民一人ひとりの「豊かなスポーツライフ」の実現をめざします。

#### (1) スポーツライフの実現

事務事業	No.48	市民体育祭	H23 年度決算額	1,228 千円
事業の目的	伊那市におけるスポーツの振興・推進のため、市民を対象とした当該大会を開催することにより、市民のスポーツの関心を喚起し、健康増進に寄与します。			
事業内容	○市民体育祭の開催		( ) 内 H22	
	種 目	参加者数	種 目	参加者数
	ゴルフ	231 (239) 人	バドミントン	74 (145) 人
	軟式野球(学童)	405 (325) 人	バレーボール	220 (220) 人
	〃 (一般)	494 (474) 人	バスケットボール	316 (232) 人
	山岳	29 (41) 人	ソフトボール	360 (400) 人
	太極拳・気功	73 (38) 人	ソフトテニス	雨天中止 (172) 人
	少林寺拳法	50 (68) 人	卓球	98 (90) 人
	ゲートボール	120 (170) 人	柔道	149 (80) 人
	硬式テニス	128 (126) 人	サッカー	160 (160) 人
	弓道	202 (164) 人	マレットゴルフ	76 (80) 人
	剣道	305 (285) 人	ソフトバレー	171 (162) 人
	陸上	215 (80) 人	スケート	57 (80) 人
	トリムバレー	212 (214) 人	綱引	35 (36) 人
	フットサル	260 (270) 人	スキー	45 (38) 人
達成状況	<p>体育協会の各専門部が種目毎に主管となり実施し、市民に最も身近なスポーツ大会として開催しています。ホームページ等の広報を充実し、参加者を増やす方策を講じながら、継続して開催することを目標に実施します。</p> <p>【参考】平成 23 年度実施状況 24 種目 25 部門開催 (7 月 17 日から 2 月 26 日) 参加人数 4,485 人 (H21:4,434、 H22:4,534 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】多くの市民が参加できるよう、種目の追加や広報を充実させて参加者を増やす工夫が必要です。</p> <p>【方向性】引き続き広報等 PR にも努め、市民が参加しやすい大会の持ち方と新たな種目の追加についても検討し開催します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.49	総合型地域スポーツクラブ	H23 年度決算額	4,001 千円
事業の目的	スポーツの振興及び市民の健康増進・体力向上を図ります。			
事業内容	○総合型地域スポーツクラブの活動支援 スポーツ教室の開催、各種イベント・大会の開催			
達成状況	<p>市民が手軽にスポーツを楽しむことができる複合型のスポーツクラブとして運営し、多くの会員が在籍し、様々な通年開催の教室も充実しています。</p> <p>本年度は市からの委託事業で伊那市トリムマラソン大会をクラブ主管で開催し多くの参加者を迎え開催しました。また指導者や会員向けに各種セミナー等研修会も開催し、県内のクラブからの視察も来るほどに成長してきました。</p> <p>【参考】クラブ登録会員数 1,585 人 (H21:1,685、H22:1,657 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 自主運営型・複合型スポーツクラブとして自立できるように支援し、地域ニーズにあった各種事業を開催する必要があります。</p> <p>【方向性】 各種大会や研修会と通年開催の教室など、行政が支援し、より多くの市民がスポーツに係われるようなクラブ運営を推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.50	春の高校伊那駅伝	H23 年度決算額	9,500 千円
事業の目的	長野県内の陸上長距離競技のレベルアップ及び振興を図るとともに、観光や合宿等の集客や伊那市のPRを行います。			
事業内容	○ 春の高校伊那駅伝の実施 ・実行委員会の運営 ・関連団体や関係機関及び参加校等との連絡調整全般			
達成状況	<p>東日本大震災の影響で中止となった前回大会を受け、2年ぶりに開催した今回の大会を盛り上げるため、競技運営の充実だけでなく、参加チームの確保や応援運動など大会を盛り上げる様々なイベントにも力を入れ、過去最多の153チームが参加し、沿道での応援、イベントも盛り上がり大会が開催できました。</p> <p>【参考】エントリー数 1,565 人 (H21:1,253、H22:1,440 人⇒中止) 出場数 153 チーム (H21:131、H22:163 校⇒中止)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 陸上競技の普及・振興とともに、伊那市のPRにきわめて有効な事業であるため、観光PRにも寄与できる要素や、合宿誘致等も念頭におき、「駅伝のまち」としての環境整備を検討する必要があります。</p> <p>【方向性】 実行委員会を中心に、魅力ある大会運営を進めます。</p>			
自己評価	a			

第 1 回伊那市トリムマラソン大会



事務事業	No.51	ソフトボールの振興	H23 年度決算額	1,450 千円
事業の目的	ソフトボールのまち「伊那市」として、毎年継続的に全国規模の大会を開催することにより、市民にハイレベルな試合観戦の機会を提供しています。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国規模の大会の開催</li> <li>・長野県ソフトボール協会へ大会補助金交付</li> </ul>			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 23 年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北信越国民体育大会ソフトボール競技 20 チーム 参加者数 約 550 人 (平成 23 年 8 月 19 日(金)から 21 日(日))</li> <li>・全日本ハイシニアソフトボール大会 46 チーム 参加者数 2,350 人 (平成 23 年 10 月 27 日(木)から 30 日(日))</li> </ul> </li> <li>○小学生女子チーム「アルプスイーナちゃんクラブ」も、継続的な活動をしています。</li> </ul>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 全国大会の誘致と、競技人口の拡大を図る必要があります。</p> <p>【方向性】 引き続き全国大会誘致と式典の簡素化など経費の見直しを行なうとともに、ソフトボール教室の開催、指導者の育成など競技人口の拡大に努めます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.52	体育施設の整備	H23 年度決算額	40,144 千円
事業の目的	利用者の利便性向上を図るため、体育施設及び設備の整備を進めます。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育施設等の管理及び整備</li> <li>○インターネット施設予約システムの運用及び更新</li> </ul>			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成23年度事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>伊那市ふれあい交流施設「ぼっ歩館」新築工事</li> <li>高遠スポーツ公園総合運動場トイレ改修工事</li> <li>陸上競技場多目的トイレ設置工事</li> <li>ますみヶ丘平地林クロスカントリーコース整備 934m(平成22年度 1,197m)</li> </ul> </li> <li>○コンピュータ及び携帯電話から施設予約ができる、より安全な新施設予約システムを導入し、利用者の利便性の向上を図りました。</li> <li>【参考】インターネット予約件数/全予約件数 420/12,537 件 (H21:1,665/15,245 件、H22:1,697/13,539 件)</li> <li>団体登録数 1,001 団体 (H21:886、H22:970 団体)</li> </ul>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 老朽化した施設の整備を順次進める必要がある。</p> <p>【方向性】 順次施設の整備を進めるために、今後は施設自体のあり方等を検討する必要がある。</p>			
自己評価	a			

伊那市教育委員会評価委員による意見

1 教育委員会の自己評価について

各事業に成果が見られ、課題や方向性について適切に示されていることから「妥当」である。

2 事務事業全般について

- ・ 学校教育、生涯学習、文化、スポーツそれぞれの分野で、多岐に亘りきめ細やかに取り組まれ多くの市民が参加している。今後も広く市民に周知するとともに若い世代への継承を図ってほしい。
- ・ 伊那市は自然が豊かであるので、これからも自然の中で歴史、文化、健康などの事業を展開していただきたい。
- ・ 事業の中には行政だけではなく市民も関わって進めていける事業も数多くあるので、今後は市民の知恵がさらに集まっていくことを期待する。
- ・ 教育とは本当に手間がかかり、目に見えるような実効が表れにくいものと思う。また、近年は、発達障害や不登校の問題、保護者の教育力の問題、いじめや虐待の問題、教員の資質の問題等々、問題も多様化且つ深刻化してきている。そうした中、教育行政も様々な対応を迫られると思うが、今後も中長期的な視点に立って進めていってほしい。特に、生涯学習に関わる領域については、地域全体の教育力の増進のためにも益々必要となってくると思う。

3 各事務事業について

No.	事務事業等	意見等
1	総合的な学習	総合的な学習の時間は教員の力量によるものが大きく、大変な取り組みである。大きな成果が期待できる反面、形骸化する恐れも大きいと思う。地域の力（人的・文化的・自然など）が必要になると思うが、費用的には充足しているだろうか。 総合的な学習は実際に触れて感じることで、学び、考える機会を増やす絶好の場と考える。今後は、学校間の交流の場があっても良いと思う。
2	学力向上	標準学力が全国平均に比べてどうかというよりも、小中学校で必ずつけるべき学力があるだろうと思う。そうした学力をつけるための取り組みをお願いしたい。
5 12 14	特別支援 中間教室 不登校児童生徒支援ネットワーク	これらの事業は、相互関係が非常に大切な取り組みだろうと思う。別々の取り組みではなく、一本化した取り組みを期待する。
7	給食運営	食育、地産地消など安全安心な給食について、先生と児童生徒で学び考える機会があれば、食に対する理解がより深まるのではないかな。
9	学校備品整備・情報教育	情報セキュリティ意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育は、積極的に取り組む必要がある。また、親子一緒に学習する機会があれば良いと思う。
10	高等学校振興	過疎地域の高等学校という特徴はあるものの、市費で一部の高等学校へ通う生徒に対し通学費を補助することは、公平性を欠くことだと思う。是非について再考していただきたいと思う。
12 ～16	心の教育と支援	いじめに対する世の中の注目度は高まっており、不登校やいじめによる心のケアが必要な児童生徒などを孤立させないよう、十分な支援をお願いしたい。 各事業を一本化等により同じ枠組みの中で取り組むことができれば、より効果的に推進できるのではないかなと思う。
17	市民大学	若い人や働いている世代の参加が少ないように思う。講座の開催日程や内容などの検討をしていただきたい。

17 22 23 27	市民大学 公民館共同事業 公民館事業 生涯学習センター	魅力ある内容であるが、参加者数が伸び悩んでいる印象を受けるので是非PRをお願いしたい。 各事業の一本化等により同じ枠組みの中で取り組むことができれば、より効果的に推進できるのではないかと思う。
28 ~29	人権同和教育の推進	いじめが大きな社会問題となっている中、重要性を増している事業であるので、より積極的な取り組みを期待する。
31	子ども週末活動の支援	学校5日制との関連で始められた事業かと思うが、「ジュニア・リーダーの育成」という目的がどの程度達成できているのか疑問がある。24年度から委託事業とするとのことだが、市費での運営が必要な事業なのだろうか。
40	創造館	生涯学習の場として素晴らしいところだと思う。魅力ある事業を期待する。
42	信州高遠美術館	美術・芸術に関する講座、教室を企画運営することにより、美術館をより身近な場所にしてほしい。
35-1 ~42	文化事業などの充実 博物館などの整備・活用	地域文化を理解し、より振興させていくためにとても大切な事業だと思う。参加者が少ないという理由で止めることなく、より参加者が増える方向を模索しながら進めてほしい。高等学校にも呼びかけがあるが、学校側とも具体的に連絡・相談しながら高校生の参加を積極的に進めていくのも良いと思う。 高遠町にある美術館、博物館について広く周知し、多くの人が触れ合える機会を設けてほしい。
43 ~47	文化財の保存・継承・活用	地元にある素晴らしい文化財を子どもたちが直に触れることで、継承発展してほしい。
48	市民体育祭	内容などがわかりにくい感じがする。大会の持ち方や広報などを検討したほうが良い。
50	春の高校伊那駅伝	是非、地元の高校生も出場する大会であってほしい。
50 51	春の高校伊那駅伝 ソフトボールの振興	いずれの事業も大会運営が中心となっているという印象を持った。ハード面の整備と高校での選手育成補助などを期待する。 宿泊や飲食も含め、観光、経済効果を期待する。受け入れ態勢を整え、PRをお願いしたい。

平成24年度

伊那市教育委員会評価委員

伊那西高等学校長 出野 憲司

伊那市女性人材バンク 矢田 雅子

中部PTA連合会長 関口 浩